私の授業～うまくいったこと、いかなかったこと

所属	国際学部国際学科	氏名	秋月　望
テーマ	電子書籍教材、事前事後学修促進のこころみ		

2016 年度の春学期、1 年生向けの基礎教育「現代史」を 4 年ぶりに受け持つことになった。国際学科の全 1 年生を 1/3 ずつ 3 クラスに分け、3 人の担当教員で各クラス 5 回ずつの講義を行う。担当者のそれぞれの分野で、現代社会の捉え方を習得させるものである。

今回、事前事後学修に電子書籍(EPUB)を導入してみた。

日本社会では不読率、すなわち 1 ヶ月全く本を読まない人が増えているとされる。文化庁の調査では不読率 47.5%(2014)となっているが、この数値は紙媒体のものだけ。紙と電子の両方の書籍では、不読率は 35.9%であるという(2014)。そうしたことから、今回の教材配布も従来型のものにプラスする形で電子書籍教材を導入してみようという試みである。

2016 年度から国際学科 1 年生の「専門外国語」のテキストを電子書籍化(EPUB)して紀伊国屋書店から販売することになった。このテキストは、書籍ビューアーKinoppy をインストールしたパソコンやタブレット、スマホで読むことができる。そのため、1 年生は EPUB ファイルを読むことのできる環境をすでに持っていた。

今回、電子書籍化したのは、私の書き下ろし原稿で、TXT ファイルが手元にあったので簡単にリフロー型 EPUB ファイルにすることができた。リフロー型というのは、文字サイズに合わせて文字数・行数をディスプレーサイズにフィットさせることができるもので、いろいろなデバイス環境に合わせて無理なく読むことができる。また、ビューアー側で横書き表示と縦書き表示の切り替えもできる。こうした点で、PDF ファイルのように固定化されたフィックス型電子書籍とは決定的な違いがある。

ただ、リフロー型はプリントアウトするのには向いていない。そのため、紙媒体にして読みたいという受講生のためには PDF ファイルも用意している。その場合、本学で導入しているオンデマンドプリンターでは、持ち込み PC やモバイル機種で PDF の複数画面を A4 用紙に 2 画面とか 4 画面での印出設定ができないことがある。従って、A4 サイズ用紙で適切な大きさになる印字用の PDF ファイルを準備する。EPUB も PDF も、E-Learning の教材配布からダウンロードさせることができる。

EPUB ファイルには画像を挿入することができるし、音声や動画の挿入も可能であり、外部サイトへリンクさせることもできる。いろいろ工夫をすると事前事後学習に有効に活用できそうである。

今回のケースを含め、電子書籍教材が事前事後学習にどの程度活用されるか、学習効果の向上につながるか、あるいはどのような問題があるかなどについては、秋学期からの付属研のプロジェクトで検証していきたい。